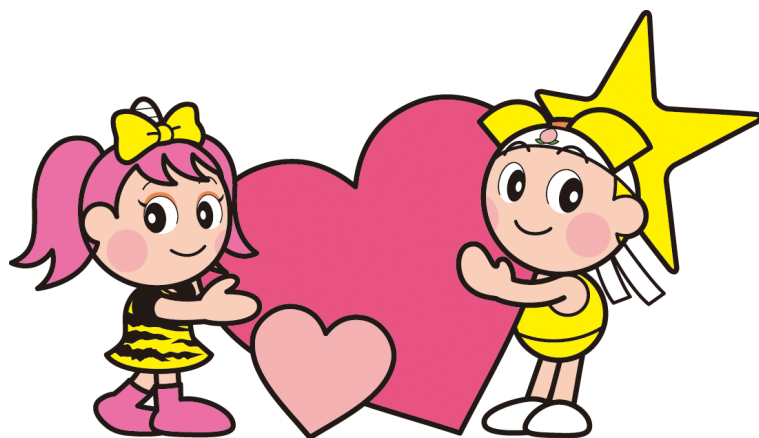


平成 2 6 年度

協働事業提案募集の概要



平成 2 7 年 1 2 月
岡山県備中県民局

目 次

1	協働事業提案募集制度の概要	・・・ 1
2	平成 2 6 年度提案募集の流れ	・・・ 1
3	平成 2 6 年度協働事業提案募集採択事業一覧	・・・ 3
4	協働事業提案募集採択事業の概要	
No. 1	：さあ のはらへいこう 里山を歩こう事業	・・・ 4
No. 2	：地元の食材を使ったお料理広場による子育て応援事業	・・・ 8
No. 3	：備中の文化である綿で玉島の町を白く埋め尽くし、復活、伝承、 定着をはかる	・・・ 12
No. 4	：備中・町家クラス（備中地域の歴史的建築物を活用した暮らしの 体験事業）	・・・ 14
No. 5	：備中地域における教育現場での和楽器と邦楽の普及度の実態調査	・・・ 18
No. 6	：「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッ ププログラムの開発	・・・ 22
No. 7	：みなと玉島発！産業観光でつなぐ「玉島バスセンター物語」	・・・ 28
No. 8	：荒廃茶園の復活再生と”地紅茶”で高粱を元気にする	・・・ 34
No. 9	：自閉症療育セミナー及び治療教育相談会	・・・ 42
No.10	：発達障がい連続勉強会&情報交換会	・・・ 44
No.11	：高校生による”備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き”	・・・ 48
	（参考）平成 2 6 年度協働事業提案募集チラシ	・・・ 52
5	備中県民局協働事業審査委員会の概要	・・・ 56
6	協働研修の実施状況	・・・ 58
7	平成 2 2 年度～平成 2 5 年度における協働事業提案募集採択 事業の概要	・・・ 60

1 協働事業提案募集制度の概要

この制度は、多様化、複雑化する地域の課題やニーズ等に対して、行政が単独で対応することが困難になってきている中、特定非営利活動法人又はボランティア活動団体・市民活動団体等、社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（以下「NPO等」という。）から、その専門性、柔軟性等を活かした事業の提案を募集し、NPO等と岡山県備中県民局（以下「県民局」という。）が協働することで、地域課題の効果的・効率的な解決を図ることを目的とし、実施するものである。

2 平成26年度提案募集の流れ

（1）提案募集期間

平成25年12月10日（火）～平成26年1月28日（火）

（2）応募事業数

45事業

（3）第一次審査

備中県民局協働事業審査委員会（以下「審査委員会」という。）が、応募のあった45事業について書類審査を実施した結果、第一次審査通過事業として20事業を選考した。

（4）第二次審査

平成26年4月18日（金）、備中県民局会議棟にて、第一次審査を通過した19事業（1団体辞退）について団体によるプレゼンテーションを実施し、審査委員会による審査の結果、11事業が採択された。

（5）採択事業事務説明会、協定書の締結、事業実施等

平成26年4月25日（金）、採択された11事業の団体担当者に対し、事務の流れ等を説明した。

その後、県民局担当課との間で協議を行った上で協定書を締結し、それぞれ事業に着手した。

（6）中間報告

平成26年10月～11月、実施事業の進捗状況について、審査委員会委員に対し、地域づくり推進課担当者から個別に報告を行った。

(7) 事業結果報告

平成27年3月9日(月)、備中県民局会議棟にて、採択された11事業を実施した団体が、事業結果について、パワーポイント等を使用しプレゼンテーション形式で報告を行った。



3 平成26年度協働事業提案募集採択事業一覧

事業名	団体名	事業概要
さあ のはらへいこう 里山を歩こう事業	NPO法人 吉備野工房ちみち(総社市)	大人が子どもの自主性を信じた育児方法を知ることがを目的に、次の事業を行う。 ・映画上映会 ・講演会 ・里山歩き
地元の食材を使ったお料理広場による子育て応援事業	よりはぐプロジェクト(倉敷市)	地元食材を使ったお料理広場を年間13回程度開催し、それを通じて子育て支援を行う。
備中の文化である綿で玉島の町を白く埋め尽くし、復活、伝承、定着をはかる	NPO法人 備中玉島観光ガイド協会(倉敷市)	備中地域に古くから伝わる綿の植樹、写真展、種の販売等を行い、伝統を継承し、観光資源等として生かしていく。
備中・町家クラス(備中地域の歴史的建築物を活用した暮らしの体験事業)	NPO法人 倉敷町家トラスト(倉敷市)	備中に残る町並み等を活用し、町家における暮らし体験など、種々のプログラムを実施する。
備中地域における教育現場での和楽器と邦楽の普及度の実態調査	一般社団法人 倉敷未来機構(倉敷市)	備中地域の教育現場における和楽器に関する調査(和楽器の有無、和楽器を利用した活動の有無等)を行うとともに、和楽器体験モデル授業を行う。
「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発	龍の仕事展実行委員会(倉敷市)	龍の仕事展を、大学生のインターンシップの場として活用するとともに、学生受け入れに関するプログラムの作成等を行う。
みなと玉島発!産業観光でつなぐ「玉島バスセンター物語」	玉島商工会議所(倉敷市)	産業観光コースを作成し、それらを巡るバスツアーを実施する。
荒廃茶園の復活再生と“地紅茶”で高粱を元気にする	百姓のわざ伝承グループ(高粱市)	廃園となった茶園を復活させ、都市と農村の交流を行うとともに、地紅茶を発信するイベントを開催する。
自閉症療育セミナー及び治療教育相談会	NPO法人 岡山県自閉症協会(岡山市)	自閉症及び発達障害に対する理解を深めること等を目的に、セミナー及び相談会を開催する。
発達障がい連続勉強会&情報交換会	NPO法人 ていーたいむ(倉敷市)	発達障がいの子をもつ家族を主な対象として、発達障がいについて学ぶ勉強会と情報交換会を8回程度行う。
高校生による“備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き”	「聞き書き」実行委員会(総社市)	高校生が先人から話しを聞き、それを文章に書き、フォーラムにおいて発表する。

※ 事業概要については、採択時のものであり、その後の調整により変更となっている場合がある。

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.1

1 事業名 : さあ のはらへいこう 里山を歩こう事業

2 実施団体名 : NPO法人 吉備野工房ちみち

3 協働担当課 : 福祉振興課子育て支援班

4 事業概要

本事業は、子どもの健やかな育ちに必要な自主性や体力、想像力などを大人が阻害していることが多々ある現状を鑑み、大人が子どもの育つ可能性を知り、大人の役割を考えるきっかけを提供すること、及び、人の生活に必要な不可欠な自然との共生を親子で体験することにより、個々のもつ力を発揮しやすい環境が広がり、自然の恵みや生活、子どもの遊びやコミュニケーションを改めて考える人が増え、社会全体が子どもの育ちに関して意識変化をし、子どもが個々の能力を最大限に発揮して健やかに育つことを目的として、青空保育の映画鑑賞会、講演会、里山歩き体験を実施し、一般向け冊子を作成する。

5 事業の流れ等

(1) 映画試写会 総社市・高梁市 各1回

(2) 映画鑑賞会「さあ のはらへいこう」

第1回 平成26年9月23日(火・祝) 午前

倉敷市マービーふれあいセンター

参加者 : 大人17名、大学生3名

第2回 平成26年9月23日(火・祝) 午後

倉敷市マービーふれあいセンター

参加者 : 大人50名、大学生2名

第3回 平成26年9月28日(日)

高梁市吉備国際大学13号館

参加者 : 大人30名、大学生6名

(3) あおぞら自主保育主催者の講演会

平成26年9月23日(火・祝)

倉敷市マービーふれあいセンター

参加者 : 大人41名、大学生2名

(4) 体験プログラム(子どもは山を冒険・大人は手作り体験)

第1回 平成26年11月9日（日）

高梁市宇治町宇治地域市民センター

参加者 親4名、子ども10名（里山歩き参加は9名）

第2回 平成26年11月15日（土）

総社市昭和公民館水内分館

参加者 親5名、子ども12名（里山歩き参加は10名）

第3回 平成26年11月23日（日）

総社市昭和公民館水内分館

参加者 親7名、子ども12名（里山歩き参加は10名）

（5）報告書の作成、配布

平成27年2月 300部作成

教育委員会、子育て支援施設等に配布

6 成果・効果

（1）映画上映会・意見交換会・講演会

- ・参加者の満足度は「満足・ほぼ満足」で100%だった。
- ・「子どもが小さくても他者のお世話をすることに驚いた」「環境により子どもは得ていくことが変わっていく。できれば自然の中で子ども同士の関係を大切に育てたいと思った」という感想により、大人が子どもの力を改めて知ったのではないかと思われる。
- ・映画鑑賞後の少人数での話し合いは意見や自分の現状・社会の状況などで話が盛り上がり、時間が足りないほどだった。
- ・子育て中の親からは「子どもとの接し方、子どもの力を発揮できる環境について考えを改めたい」という感想があり、親の役割などを考えるよい機会になったと思われる。

（2）体験プログラム

- ・参加者の満足度は「満足・ほぼ満足」で100%だった。
- ・子どもが自信に満ちた顔で生き生きしていたし、積極的に友達と接していた。また新しいことへの挑戦を楽しんだり、お母さんの手作りのねじり菓子やうどんに興味を持ち、おいしく食べて喜んでいたのが印象的である。
- ・子どもが喜んでいる姿を見て、大人が喜んでいた。
- ・山歩きや手作りの体験により、興味を持っている親子が増えた。
- ・親が子どもと離れて楽しむことにより、気持ちが和らいでいた。
- ・地域の方が地域の活動や個人のもつ手作りの技に興味を持つようになり、そのことで、若い家族との交流ができたり、子どもたちと触れあえること

を喜ばれていた。

(3) 報告書の作成、配布

- ・配布後の反応の把握は難しいが、社会全体が子どもの育ちに関して意識変化をし、子どもが個々の能力を最大限に発揮して、健やかに育つことができる環境づくりのヒントになればと思う。

7 今後の課題等

- ・参加者は、子どもの環境に関心を持っている人がほとんどであり、そこから少しずつでも子どもの育ちや遊びに興味を持つ人が広がるように発信を続けていきたい。
- ・すべての子どもに力があり、「よいところ」を他者が褒めたり、親が実感できる場が必要だと思った。
- ・色々な世代の人が1つの話題で話をしていくことは有意義で、子どもの育ちを考える場、市民が話し合える場の必要性を感じた。
- ・今回の事業を通じて、参加者・行事や広報活動の協力者・県民局等と新たなつながりを得ることができた。こうしたつながりを大切にしながら、小さな活動の紹介や地域や参加者主体の活動が広がるよう支援していきたいと考えている。自然の恵みと共に丁寧に生活すること、子どものみならず個人の力が発揮しやすい環境が広がるよう今後も活動を進めていきたい。

8 実施状況

	
映画鑑賞会（マービーふれあいセンター）	意見交換会



あおぞら自主保育主催者の講演会



講師と記念撮影



道なき道をのぼっていく子どもたち
里山体験：総社市水内地区



みんなで登ったよ～記念撮影



お母さんは手打ちうどん作り
総社市水内地区



みんなでうどんをいただきました

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.2

1 事業名 : 地元の食材を使ったお料理広場による子育て応援事業

2 実施団体名 : よりはぐプロジェクト

3 協働担当課 : 福祉振興課子育て支援班

4 事業概要

東日本大震災により避難・移住された方々および地域住民が、子育ての不安や悩みを共有して、ほっとリラックスできる機会・場所が不足していること【子育ての孤立化】と、将来、親になる若い世代が子どもやその親とのふれあいを体験する機会が日常の中にあまりないことで、親になったときの不安やとまどいを抱えやすいという地域課題を解決するために、地元の食材を使ったお料理広場を託児つきで、地域のボランティアを発掘しながら実施するとともに、効果を実施マニュアルとして活用し、来年度以降も、地域ぐるみでの子育てを応援する環境づくりの推進に努めていくことを目的として、実施する。

5 事業の流れ等

(1) 倉敷市説明会

平成26年6月25日(水) 倉敷南公民館和室

参加者: ボランティア5名

(2) 倉敷市お料理広場 場所: 倉敷南公民館 調理室・和室

① 平成26年7月2日(水)

参加者: 大人 13名(避難者3名)、子ども 11名

ボランティア 7名(大人)

② 平成26年9月17日(水)

参加者: 大人 8名(避難者1名)、子ども 10名

ボランティア 4名(大人)、3名(学生)

③ 平成26年10月15日(水)

参加者: 大人 11名(避難者1名)、子ども 10名

ボランティア 4名(大人)、2名(学生)

④ 平成26年11月5日(水)

参加者: 大人 7名(避難者0名)、子ども 7名

ボランティア 3名(大人)

⑤ 平成26年12月3日（水）

参加者：大人6名（避難者0名）、子ども 6名
ボランティア 2名（大人）

⑥ 平成27年1月27日（火）

参加者：大人6名（避難者0名）、子ども 7名
ボランティア 3名（大人）、2名（学生）

⑦ 平成27年3月18日（水）

参加者：大人8名（避難者0名）、子ども 10名
ボランティア 5名（大人）、2名（学生）

（3） 矢掛町説明会

平成26年9月23日（火・祝） 矢掛町農村環境改善センター和室

参加者：ボランティア 1名（大人）、4名（学生）

（4） 矢掛町お料理広場

① 平成26年9月28日（日）

矢掛町農村環境改善センター調理室・和室

参加者：大人9名（避難者0名）、子ども 17名
ボランティア 0名（大人）、3名（学生）

② 平成26年11月12日（水）

矢掛町健康管理センター調理室・和室

参加者：大人4名（避難者1名）、子ども 4名
ボランティア 0名（大人）、0名（学生）

③ 平成27年3月1日（日）

旬家ファーム 東三成集会所

参加者：大人8名（避難者7名）、子ども 7名
ボランティア 2名（大人）、2名（学生）

（5） 浅口市説明会 → 台風のため中止

（6） 浅口市お料理広場

① 平成26年10月26日（日）

寄島東公民館 調理室・和室

参加者：大人10名（避難者5名）、子ども 13名
ボランティア 2名（大人）、1名（学生）

② 平成27年3月8日（日）

金光公民館 調理室・和室

参加者：大人6名（避難者2名）、子ども 6名
ボランティア 3名（大人）、3名（学生）

6 成果・効果

- ・実施後のアンケートでは「とても楽しかった、楽しかった」が全体で90%だった。
- ・ボランティアで託児に参加してくださった方も、「顔見知りのお子さんも増えてきて、成長を見ていくことができて楽しい」「皆さんがとても熱心に子どもさんに対応しているところ、がんばっている姿に感動しました」との感想だった。
- ・子育て応援ボランティアの発掘・育成ができた。
- ・子どもと接することの少ない若い世代（中・高・大学生等）に、子育てを学ぶ機会の提供ができた。
- ・震災避難者と地域住民との交流促進を図れた。

7 今後の課題等

- ・倉敷市中心部と浅口市・矢掛町での子育てについての意識・環境の違いが大きく、ニーズの差があると感じた。矢掛地区ではそのニーズの把握が大切だと思った。
- ・当初予定していた、地域の子育てサークルとの連携ができなかった。
- ・【倉敷地域】
核家族の子育て世代が多いため、託児付きのイベントや一時預かりなどのニーズが高い。気軽に子どもを連れて行ける場所・参加できるイベントが求められている。
- ・【矢掛地域】
地縁があるので矢掛に住んでいるという子育て世代が多いため、託児よりも子どもと一緒に料理をしたいというニーズが高かった。人の繋がりの濃い地域性で、来られた方たちのほとんどが知りあいだった。
- ・【浅口地域】
避難者と地元の子育て中のお母さんがバランスよく参加され、小学生以上の子どもがいる方が多かった。子どもと一緒に料理をしたいが、なかなか家ではできないので、楽しく一緒に子どもと料理ができたことが楽しかったという意見が多かった。

8 実施状況



事前説明会（倉敷市）



倉敷地区第1回



みんなで食事（倉敷）



矢掛地区第1回



矢掛地区の中高生ボランティア



浅口地区第1回

平成 26 年度協働事業提案募集採択事業の概要 No. 3

- 1 **事業名** : 備中の文化である綿で玉島の町を白く埋め尽くし、復活、伝承、定着をはかる
- 2 **実施団体名** : 特定非営利法人 NPO 法人備中玉島観光ガイド協会
- 3 **協働担当課** : 地域づくり推進課振興班
- 4 **事業概要**
 - ・ ボランティア観光ガイドが主目的であるが、平成 21 年度の観光客激減に対応し観光客誘致に備中綿を戦力として取り組んだ。
 - ・ 全国に向けネットや、新聞、書物などを通じて備中玉島の宣伝を行っている。
 - ・ 結果として案内した観光客は平成 21 年度→26 年度で 309% となった。
 - ・ 玉島に推定 3,500 本くらいの綿があるが（NPO 法人備中玉島観光ガイド協会では 1,000 本）、波及効果として、耕作放棄地の取り組み、耕作ミカン園への取り組み、身障者団体を中心として支援など効果を上げている。
 - ・ 出前講座を中心に子どもたちに将来の玉島を託する希望の活動をしている。
- 5 **事業の流れ等**
 - ・ 倉敷市玉島円通寺前の耕作放棄地に 1,000 本の綿を植えた。
 - ・ 今年から新品種アップランド種を加えた。
 - ・ 5 月・植樹祭→岡山県連合 OB の参加（8 月鑑賞会・9 月収穫祭で行った）。
 - ・ 写真コンテストを行った（40 点の応募）。
 - ・ 1 月 24、25 日→備中玉島綿あそびイベントを行った（参加者 370 名）。
 - ・ 地元、高校、小学校の出前講座を行った。
 - ・ 公民館、図書館などで講座を行った。
- 6 **成果・効果**
 - ・ ご案内した観光客が平成 21 年度比 309% になった。
 - ・ 綿の紬菓が完成した。
 - ・ 玉島円通寺 CottonRoad の作業時間を平成 25 年度 420 時間→320 時間まで短縮した。
 - ・ 各地から玉島円通寺 CottonRoad の見学者が増えた。

7 今後の課題等

- ・平成27年度から補助金がなくなるため、さらなるコストダウンと販売に力を入れる。
- ・労働集約型で通期の作業なので後継者育成が一番の問題であり、視点を変えて取り組む。

8 実施状況

	
綿畑・玉島円通寺 CottonRoad	収 穫 祭
	
出前講座	備中綿の歌・玉島混声合唱団
	
「綿 no 紙」で描いた絵	綿の釉薬を施した茶碗

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.4

1 事業名 : 備中・町家クラス（備中地域の歴史的建築物を活用した暮らしの体験事業）

2 実施団体名 : NPO法人 倉敷町家トラスト

3 協働担当課 : 地域づくり推進課市町村連携班

4 事業概要

備中地域に多く残る町家を活用し、町家における衣食住の暮らし等を体験する様々なプログラムを開発の上、参加者に体験してもらう事業を実施する。

5 事業の流れ等

（1）開催期間

11月21日（金）から30日（日）までの10日間

（2）開催場所

備中地域全域（倉敷美観地区及び周辺、児島下津井、玉島、鴨方、高梁市本町、吹屋、総社、矢掛、新見）

（3）参加者数

総参加者464名（講師、スタッフ、見学者等含む。）

うち、プログラム参加者数286名

（4）プログラムの概要

① 開発プログラム数 26種

※ 26種のプログラム中、2種は都合により開催を中止したため、実際に参加者があったプログラムは24種

② 主なプログラム名等

- ・男の着付け教室（倉敷美観地区 楠戸家）
- ・昭和の町家暮らし奮闘記（倉敷美観地区周辺 昭和町N家）
- ・～入門編～盆栽の楽しみ方教えます（鴨方 かもがた町家公園）
- ・備中のおやつ・おばあちゃんをつくる けんびき焼き（吹屋 旧水野旅館）
- ・町家で手仕事WORK・ワク（総社 旧堀和平邸）
- ・季節の練りきりと法曹茶を味わう（新見 太池邸） など

6 成果・効果

- ・今回初めて開催された事業であるが、備中地域に多く残る町家等を活用したプログラムの開発及びその実施を通じ江戸、明治、大正、昭和から平成に伝わる、地域の伝統的な生活文化の魅力を参加者に伝えることができた。
- ・アンケート結果では、9割以上の参加者がプログラム内容に非常に満足したと回答しており、その他マスコミにも多く取り上げられるなど、完成度の高い事業となった。
- ・また事業の実施を通じて、備中地域の町並み保存・活性化団体の連携が深まり、ネットワーク化の推進を図ることができた。

7 今後の課題等

- ・事業を継続的に実施するためには、財源の確保に努める必要がある。今回、参加者から負担金を徴収したが、財源として十分ではない。
- ・今後、継続的な事業とするため、より魅力的なプログラムの開発及び実施に努める必要がある。

8 実施状況

	
事業パンフレット	男の着付け教室
	
昭和の町家暮らし奮闘記	備中のおやつ・おばあちゃんをつくる けんびき焼き
	
町家で手仕事WORK・ワク	季節の練りきりと法曹茶を味わう



平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.5

- 1 事業名 : 備中地域における教育現場での和楽器と邦楽の普及度の実態調査
- 2 実施団体名 : 一般社団法人倉敷未来機構
- 3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

備中地域の地域活動・経済活動・教育現場における邦楽の普及状況（和楽器の有無、和楽器を利用した活動の有無等）の実態調査を行うとともに、日本を代表するプロ奏者が、学校及び地域の伝統的な音楽活動に関わることによる好循環な環境を創出するためのモデル事業を実施する。

5 事業の流れ等

(1) ビジョン委員会

内容 : 地域委員・専門家委員による各種事業の意見交換・報告

開催 : 6/6、7/9、9/26、1/23、2/18 (延べ40名参加)

(2) 学校向けアンケート調査

内容 : 備中地域の教育現場における和楽器及び邦楽の普及度を調査するため、412校にアンケート調査を実施

(3) 学校訪問ワークショップモデル事業

内容 : プロ奏者を招いての指導・コラボ演奏

清心中高箏曲部 7/14、8/25、9/6、9/7

倉敷支援学校 1/22 (延べ222名参加)

(4) 市民参加型ワークショップモデル事業

内容 : 公募による参加者が、プロ指導者や演奏者の指導を受けながら備中地域の歴史や文化、人物などの物語や史実に基づくオリジナル脚本を作り、音楽劇を実演するワークショップを開催

開催 : 11/19、11/20、12/10、12/11、1/18、1/21、1/22 (延べ85名参加)

(5) 成果報告会

内容 : 学校訪問ワークショップモデル事業及び市民参加型ワークショップモデル事業の成果発表 (80名参加)

日時 : 平成27年2月18日 18:30～20:00

会場 : 倉敷新溪園

6 成果・効果

(1) ビジョン委員会

- ・各委員からの実践報告と共に、多様な視点からのコメントを頂戴し、次年度以降の活動に向けて、指針を得ることができた。
- ・地域内外で活動する主体者同士の合意形成を図ることができる第一段階となった。
- ・派生的なプロジェクトを生み出すことができた。

(2) 学校向けアンケート調査

- ・学校での教育における和楽器と邦楽の取扱の実態が明らかとなった。
- ・学校での和楽器の保有と利活用の状況が明らかとなった。
- ・ワークショップや学校公演等に関するニーズが明らかとなった。

(3) モデル事業

- ・児童生徒向け、一般向け、教職員向けそれぞれの手法にノウハウを獲得できた。
- ・市民参加による地域の物語を掘り起こし、コンテンツ化するノウハウを獲得できた。
- ・音楽劇コンテンツを制作、発表することができた。

(4) 成果報告会

- ・関心の高いコア層の参加者に、活動の目的とビジョンを周知することができた。
- ・参加者が一堂に会する機会となり、次年度以降の活動への契機となった。

7 今後の課題等

備中地域7市3町における邦楽の普及展開において、多様かつ幅広い担い手のネットワーク化を推進し、連携して展開する必要がある。

また、実施したモデル事業をより発展させて実施するため、受益者からの負担金の徴収とともに、安定的・継続的な活動のための財源確保が必要である。

8 実施状況

	
ビジョン委員会	学校訪問ワークショップモデル事業
	
市民参加型ワークショップモデル事業	成果報告会
	
成果報告会	成果報告会



平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.6

1 事業名 : 「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発

2 実施団体名 : 龍の仕事展実行委員会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

「龍の仕事展」を活用し、大学生が自己啓発力・自己教育力・地域戦略を身につけることのできる人材育成プログラムを産-官-学の連携で開発する。

(1) 参加大学の拡大（新見市立短期大学、県内他大学へも）

(2) 各大学を回り事前研修会を開催

(3) 各企業と事前の受入プログラムを検討

(4) 仕事展中のPDCAプログラムを策定

(5) 経験を後の将来設計やキャリア設計に反映できるフォローアップセミナーを開催

5 事業の流れ等

4月には事前説明資料を大学へ配布。実行委員会への参加をお願いし、事業説明に大学を訪問。5月～6月で募集と事前研修を終了。学生の希望に事前研修成果を照らし合わせ、講師が担当企業のマッチングを実施。学生は7月～8月で企業訪問を行い、企業と課題を共有し、提案を行った。9月の「龍の仕事展」で企業の顔として会場で実践研修を行った。10月には成果報告会とフォローアップセミナーを開催。

6 成果・効果

(1) インターンシッププログラムの事業説明

①大学への事業説明

4月上旬には龍の仕事展2013実行委員会の大学メンバー、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、岡山県立大学、吉備国際大学、倉敷市立短期大学、川崎医療福祉大学の6大学へは本年度「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発の主旨と内容を伝え、協力をお願いを行う。なかでも、新見市の大学と企業、高梁市の大学と企業に注力をした。新見公立大学が参加してくれることによって、高梁川の本流、新見市、高梁市、総社市、倉敷市の大学連携が可能となった。

また、地元出身の学生が多く通う大学へも普及することを目的に、本年度はノートルダム清心女子大学、岡山理科大学、就実大学への協力と実行委員会への参加をお願いした。

②企業への事業説明

「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発という部分で実行委員会並びに参加企業の方々には早い内に周知していただく必要があり、5月には実行委員と昨年までの参加企業・団体へ事業概要とD-INTERNSHIPパンフをメールにて送付した。

また、新見の学生は新見の企業と、高梁の学生は高梁の企業と研修を行えるように、積極的に参加していただいている吉備国際大学の学生の為にも高梁市の参加企業を増やす必要があった。

本年度は「龍の仕事展」を大学生の人材育成として活用したインターンシッププログラムの開発に注力したため、それ以外に参加企業の新規開拓は行わなかった。

(2) 事前研修

- 第1回 吉備国際大学 6月15日 (10名)
- 第2回 倉敷芸術科学大学 6月26日 (11名)
- 第3回 くらしき作陽大学 7月6日 (18名)
- 第4回 備中県民局 7月27日 (20名)



(3) 参加学生

マッチング前のエントリーは倉敷芸術科学大学から20名、くらしき作陽大学から18名（最終は16名）、吉備国際大学から9名（最終は8名）、新見公立大学から2名、ノートルダム清心女子大学から1名、環太平洋大学から1名、川崎医療福祉大学から1名の合計52名であった。

(4) 担当企業のマッチング

学生がエントリーシートに記入した希望企業と事前研修の評価により担当する企業のマッチングを講師3名で検討した。龍の仕事展での他大学との交流も他のインターンシップには無い大切にしたい特性である。

新見公立大学は新見の企業を担当、吉備国際大学は高梁の企業を担当とし、倉敷芸術科学大学の学生はできるだけ他大学の学生と組むように配慮した。また、倉敷芸術科学大学同士でも、学部の異なる学生が組むように配慮した。

基本的には学生が来れない日は企業側で運営することが条件であるが、それを補うためと、学生の指導、責任を負わせられないレジに一般のボランティアを8名に依頼し、毎回6~7名を常時サポーターとして配置することとした。また、出席の多い前半5日間で学生を育て、穴の空いたブースを近隣の学生にフォローさせるよう指導にあたった。

(5) 企業研修

本年度は学生たちが自ら担当する企業へアポイントを取り自力で訪問することとした。50名の学生を24の企業・団体に受け入れていただいた。

(6) 企業での課題解決プログラム

企業研修では、学生たちは企業の理念や商品知識をつけるだけでなく、「龍の仕事展」での企業の課題を共有し、提案を行い、龍の仕事展で自ら実践を行った。

(7) 龍の仕事展でのPDCAプログラム

龍の仕事展では、朝・夕とミーティングを開き、皆の前でその日の課題と目標を発表、それに対し取り組んだ成果報告を毎日行い、反省と課題解決の方向を皆で考えるPDCAサークルを回すプログラムを行った。前半は客への対応でいっぱいだった学生は数日たつと周囲にも目が向けられる様に成長し、スタッフが少ないブースの面倒まで見れるようになった。

無事、9日間が終了。述べ294名の学生が活躍した。今年の龍の仕事展は爽やかな3連休に始まり、晴れの日曜日で終わり、昨年に比べ終始暑くなく、涼しい環境で開催することができた。

来訪者からも、「会場、接客共に昨年より良くなった」との評価を多数いただき、そして、何より学生たちの頑張りが評価された。

3年間8千名台で留まっていた来訪者数も、累計11,131名の来訪者を迎え遂に初めて1万人を越えた。更に、集中レジの売上も250万弱と過去最高になり、D-INTERNSHIPの成果が数字になって表れた。

(8) 成果報告会・フォローアップセミナー

10月に予定していた報告会を熱の冷めないうちに龍の仕事展終了後翌週の9月28日に行った。また、9月に出席できなかった学生を対象に10月に2回目を実施。

① 第1回成果報告会・フォローアップセミナー

9月28日(日)、備中県民局会議棟を借りて成果発表会を行った。フォローアップセミナーでは、学生は担当した企業に就職するわけではないのだから、企業成果の報告に固執しないように注意した。企業成果もD-INTERNSHIPのひとつの成果だが、全体の活動の一部であることを説明。龍の仕事展の9日間は企業の顔としていくつかの課題を目指してきたが、D-INTERNSHIPは事前講習から始まり、企業研修、龍の仕事展までの一連の活動全般を振り返り、参加前の自分と違う自分に気づき、様々な体験から、これからの大学での学業や自分の人生に、新たな課題や目標をもつことの大切さを伝え、自己教育力の必要性を示した。また、自分の理解度を飾らず、自らの言葉をさがすことで自らを客観視できることが自己啓発力のスタートであることを伝えた。

② 第2回成果報告会・フォローアップセミナー 補講

10月19日(日)、倉敷天文台彰邦館を借りて成果発表会を行った。フォローアップセミナーでは前回同様に自己教育力・自己啓発力へ結びつく様に指導した。振り返りは1回より2回、回数を増やすことが大切である。その後も各大学で成果報告をした学生の内容は数段進歩していた。

(9) 評価票の作成

事前講習、企業研修、龍の仕事展、成果報告会・フォローアップセミナーの4つの事前・事後で学生を評価し、定性的評価も含め参加者全員の評価票を作成した。

7 今後の課題等

(1) 全体のタイムスケジュールの見直し

本年度は企業研修の期間が迫いやられ、特に企業側から長くして欲しい要望も出た。その為には 6 月には事前研修を終える必要があり、参加学生の締切を 5 月中旬までに終えるスケジュールが望ましい。

(2) 募集の段階

① 目的の明確化

参加学生、受入企業共にインターンシップの目的を事前に明確にする仕組みを設ける。

② エントリーシートの充実

参加学生が申込の際に記入するエントリーシートを充実させ、自己PRや大学での学びや活かせる専門技術や交通手段などを事前に把握することが望ましい。

③ 学生情報のスマート化

手書きのエントリーシートによる混乱は大きな時間的ロスを生むのでWEB上で申し込める仕組みを検討する。

(3) 事前研修の充実

事前研修は半日では少ないので、1 日コースとして充実させる。龍の仕事展の意義や企業文化、地方ブランド戦略についても学べるものとしたい。ビジネスマナーなどよりマナーコミュニケーションに力を入れる。

(4) 直前研修の実施

企業研修を終えた学生たちが、龍の仕事展に入る前に、自らの課題や目標を発表する直前研修を新たに設ける。

(5) 龍の仕事展中の指導

成果報告会に学生たちが企業を呼べるように成果報告会を見据えた指導を行う。

(6) 龍の仕事展後の指導

プログラム後も学生と企業の関係継続が生まれるようにプログラムをブラッシュアップする。

(7) ふりかえりの繰り返し

成果報告が 1 度で終わらぬよう、2 度、3 度できる仕組みをさぐる。

8 実施状況



龍の仕事展：朝のミーティング



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：夕方のミーティング



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：夕方のミーティング



龍の仕事展：活動風景



龍の仕事展：活動風景



成果報告会・フォローアップセミナー



成果報告会・フォローアップセミナー



成果報告会・フォローアップセミナー



成果報告会・フォローアップセミナー

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 NO.7

1 事業名 : みなと玉島発！産業観光でつなぐ「玉島バスセンター物語」

2 実施団体名 : 玉島商工会議所

3 協働担当課 : 地域づくり推進課振興班

4 事業概要

本事業では、周辺市町の地域づくり団体、学校、地域商工・水産団体、各事業所等と連携しながら、

- (1) まず、産業観光および町並みの専門家による産業観光資源・町並み建築資源を調査・発掘。
- (2) 連携先団体等にノウハウを提供しながら、当商議所と各地域の連携にふさわしい産業観光コースを新規開発。
- (3) そのうえで、【玉島発⇄備中各地】バスツアーを8コース実施。かつての路線バスでのつながりをもとに、備中南西エリア各地の食と地場産業の「物語」を、ツアーで再構築した。

また、近隣エリアの高校との連携による次代を担う高校生の人材育成面では、事前に学校側と協議を重ねながら、

- (1) 11月9日の玉島商工会議所主催の「玉島物産展」におかやま山陽高校の製菓、調理、自動車3コースの高校生たちが出展（3ブース）。開発した新商品や新メニューの販売を行った。
- (2) さらに、矢掛高校を対象に、観光甲子園に向けたレクチャーや、町並みワークショップ&講演会を開催。また産業観光の専門家が学校に出向いて生徒に助言・指導しながら、12月20日に高校生自身が後半パートを企画し案内役をつとめる「やかげ学」発表会ツアーを実施した。

学生が企画した訪問先のひとつ山ノ上干し柿生産組合では、説明役、発表役、もてなし担当など、ガイド以外の矢掛高校生多数が現地でスタッフとして活躍した。

5 事業の流れ等

(1) 連携先団体等への説明・協議

平成 26 年 5 月～7 月 随時

協議先：大谷地区元気いっぱいまちづくり協議会、山ノ上干し柿生産組合、
寄島町漁協、高梁商工会議所、矢掛高校、おかやま山陽高校、
玉島商業

(2) 産業観光資源調査

平成 26 年 5 月～7 月 随時

調査先：玉島、金光町大谷地区、寄島町内、矢掛町内、里庄町内、船穂・
真備、高梁市中心部

(3) 専門家による町並み・建築資源調査

平成 26 年 7 月 12、13 日

調査先：玉島地区、金光町大谷地区、矢掛地区

(4) 産業観光コース開発

平成 26 年 6 月～9 月 25 日 随時現地を訪問し受け入れ先と協議

(5) ツアーチラシ作成・配布

平成 26 年 9 月 28 日～

(6) 矢掛高校

平成 26 年 5 月～12 月 19 日(随時)

観光甲子園向けレクチャー、ツアー案内役の生徒とミーティング

(7) 町歩きワークショップ&講演会

平成 26 年 11 月 27 日 12:50～16:00

会場：矢掛高校、やかげ町家交流館（講演会）、

矢掛の町並み（ワークショップ）

参加者：生徒（探究コース 2 年生）、教職員、及び関係者 計 30 名

(8) ツアー実施 計 8 コース

10 月 29 日、11 月 5、15、26 日、12 月 2、20 日、平成 27 年 2 月 19、27 日

6 成果・効果

何より、備中県民局との協働事業ということで、これまで歴史的・経済的な
つながりがありながら、近年のエリア再編でなかなか連携が実現しなかった玉
島近隣市町との産業観光による連携が実現できたことは、最大の成果といえる。
個々に成果・効果を列記していくと…

- (1) バスツアーは受付初日 1 時間で全 8 コース中 7 コースが即完売！玉島スタ
イルの産業観光の人気と集客効果が周辺市町に認知・理解された。

- (2) 各地域への理解、受け入れ事業所や製品への理解が高まり、受け入れ先での商品購入による具体的な経済効果も高かった（1ツアー12万円前後）
- (3) 産業観光が地域を知る有効な手段として理解され、あらためて地元向けに行ってほしいという要望が地元住民から寄せられている。
- (4) 事業対象先の井笠エリア各市町において、かつてのバス路線による玉島との相互連携が地元商工業の振興や地域活性化に効果があることが認知された。
- (5) 専門家調査により、金光教教学院、金光教研究所、難波教会控所等を、ツアー初公開の至宝建築としてツアー化。
- (6) 玉島・金光連携コースについては、事業を通じて地元団体との連携が進展。
27年2月に実施の通常の産業観光ツアーにおいても実際に商品化した。今後も定番ルートとして定着を図っていく。また「門前町」というキーワードで大谷地区の魅力を発信。地元関係者からも高く評価された。
- (7) 専門家が指導・助言し、やかげ学発表会ツアーにおいて、ガイドをつとめた矢掛高校生チームは、井笠広域観光協会主催の観光プランコンテストに産業観光をテーマにしたプランを提案し入選（1次予選トップ通過）。
- (8) ガイドをつとめた高校生たちは地域系大学を志望、専門知識を学んでから地元に戻って地域に貢献したいと語るまでに成長。
- (9) おかやま山陽高校の真剣な姿勢は「物産展に爽やかな新風を吹き込んでくれ感動した。また来年も出店してほしい」と、関係者からの要望が出る。
- (10) 本事業で周辺市町に新たに28カ所の産業観光受け入れ先が誕生した。

※ ツアー参加者数

実施日	コース名	参加者数
10/29	玉島・矢掛連携コース	24名
11/5	門前町金光の至宝建築をたずねて	22名
11/15	「乙島循環線」沿線めぐり	24名
11/26	みなと玉島から高梁へ高瀬舟の物語をたどる	21名
12/2	港町玉島と門前町金光の伝統産業めぐり	22名
12/20	感動の「やかげ学」発表会へ行こう！	22名
1/19	干し柿の里山ノ上の活気づくり！	21名
1/27	備中の国・杜氏ロードの美味しいものづくり	24名
	計	180名

7 今後の課題等

今回の協働事業により実現した産業観光による連携を一過性のものとせず、継続的に深化させていくことがいちばんの課題である。

また、倉敷エリア、井笠エリアというエリア区分を乗り越えて、連携することでお互いの地域課題解決を進めていくことが重要である。

幸い、事業終了以降も連携が進んでいる矢掛高校、金光町大谷地区をはじめ、今回の事業で生まれた良好な関係を今後も維持発展させていけるよう努めたい。

8 実施状況

	
参加高校との協議	協力団体との協議
	
産業観光資源調査・発掘	専門家による町並み・建築資源調査
	
10月29日（水）Aコース実施	10月29日（水）Aコース実施

	
11月5日（水）Bコース実施	11月5日（水）Bコース実施
	
11月9日（日）玉島物産展 おかやま山陽高校出店	11月9日（日）玉島物産展 おかやま山陽高校・調理コース
	
11月15日（土）Cコース実施	11月15日（土）Cコース実施
	
11月26日（水）Dコース実施	11月26日（水）Dコース実施
	
11月27日（木）矢掛高校 講演会と町歩きワークショップ	11月27日（木）矢掛高校 講演会と町歩きワークショップ

	
12月2日（火）Eコース実施	12月2日（火）Eコース実施
	
12月2日（火）Fコース実施 （1）やかげ学発表会	12月2日（火）Fコース実施 （2）高校生による好きな矢掛案内
	
1月19日（月）Gコース実施	1月19日（月）Gコース実施
	
1月27日（火）Hコース実施	1月27日（火）Hコース実施

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No.8

1 事業名 : 荒廃茶園の復活再生と“地紅茶”で高粱を元気にする

2 実施団体名 : 百姓のわざ伝承グループ

3 協働担当課 : 農業振興課

4 事業概要

(1) 荒廃茶園の復活・再生事業

場所は高粱市松原町の岡本さんの茶畑。荒廃している茶畑を復活再生するために、都市住民や大学生に協力してもらい様々な活動を行った。2年目、茶園の刈込、枝の取り出し、除草などにより約30aの茶畑が少しずつ再生してきた。今年度は新しい試みとして「地紅茶合宿」を実施して地紅茶をもっと楽しんでもらうことができた。

(2) 第3回高粱地紅茶まつりの開催

3回目となる「高粱地紅茶まつり」は駅前商店街の活性化と合わせて地紅茶を市内外に発信し、高粱の魅力アップにつなげる取り組み。今回は地元の3高校の高校生たち約200人が企画・運営を行い、大いに盛り上がった。雨にもかかわらず昨年の2倍の来場者に、関係者は十分な手ごたえを感じた。また、県内の地紅茶生産者にも参加していただいた。

5 事業の流れ等

(1) 荒廃茶園の復活・再生事業

< 第1回 > 実施日 : 平成26年6月21日(土)

参加人数 : 31名(応援隊 : 20名、地元農家 : 8名) 普及、市3名

概要 : 荒廃茶園の枝の片付け、草取り、肥料まき、お茶摘み

< 第2回 > 実施日 : 平成26年8月2日(土)

参加人数 : 21名(応援隊 : 14名、地元農家 : 5名) 普及、市2名

概要 : 荒廃茶園の草取り、お茶摘み、釜炒り茶、紅茶づくり体験、お茶の淹れかた教室

< 地紅茶合宿 > 実施日 : 平成26年7月26日(土)、27日(日)

参加人数 : 20名(参加者 : 14名、地元農家2名) 普及、市2名

概要 : お茶摘体験と紅茶の加工・釜炒り茶体験、紅茶染め体験

(2) “地紅茶”で高粱を元気にする事業<第3回高粱地紅茶まつり>開催

ア 実施日：平成26年11月1日(土)

イ 概要：地紅茶カフェ、地紅茶で足湯、地紅茶とスイーツ、高校生による各種パフォーマンスと体験コーナー（手話歌、備中神楽、コーラス、吹奏楽、ダンス、フラワーアレンジメント、ネイルサロン、ペタンク他）

各種団体の出店（フォックスフェイス、インディアントマト焼きそば他）

ウ 来場者数：約1200人（他に高粱高校、高粱城南高校、高粱日新高校を含めて180名）

6 成果・効果

(1) 荒廃茶園の復活・再生事業

2年目となり荒廃していた茶畑は見違えるようにきれいになった。しかし、雑草の繁茂して茶畑の維持管理はなかなか大変になっている。

初年度は10aだったが、2年目の春から園主が頑張ってくれて20a分の荒廃茶園を開拓して、合わせて30aの面積となった。昨年の反省から今年度は2回の荒廃茶園の作業と新企画として地紅茶合宿を行った。

昨年よりも荒廃茶園復活応援隊の参加者は少なかったが、2回目、3回目の参加の経験者も多く、作業は順調に進めた。

地紅茶合宿では2日間の日程で本格的に自分だけのマイ紅茶づくり、紅茶染めを体験したり、宿ではグループインタビュー（“地紅茶の可能性について”）の意見交換を行った。

<荒廃茶園復活応援隊の参加者のアンケート>

涼しくて、みなさんやさしくてとても楽しかった。

すごく労力が必要な作業が多く、大変だったが、その分自分で作ったお茶はすごく美味しかった。

大変な作業だったが、新しい発見や楽しさを知ることができたのでよかった。

自分でお茶を作るのは初めてだったので新鮮でより美味しく感じた。同じお茶でも色、味も違うのに驚いた。

こうしたイベントを一過性のことにするのではなく継続していくことが大切と思った。

地元の人の負担が増えないようにして欲しい。

今回で5回目の参加だったが、1回目の荒れていた茶畑がきれいになっていることに喜びを感じた。

お茶の釜炒りや乾燥を通してお茶作りを経験できて楽しかった。

高粱紅茶は飲みやすく大好きです。また、何かイベントなどがあれば参加したいです。
2回目の参加でしたが、今回もとても楽しかった。草取りも楽しくてまた茶畑を復活させたいです。

今回はありがとうございました。また、機会があれば参加したいです。

お茶摘みがしたかったので、今回できたのがうれしかったです！

いつも何気なく飲んでいるお茶がこんなに大変な作業で作られているとは。

貴重な体験でした。とても楽しくわいわい作業ができました。また来ます！

(2) “地紅茶”で高粱を元気にする事業＜第3回高粱地紅茶まつり＞開催＜

今回で3回目となる「高粱地紅茶まつり」は「11月1日＝紅茶の日」に合わせて開催した。

今回は高粱高校、高粱城南高校、高粱日新高校の3高校が中心となって企画、運営をしてくれた。地紅茶まつりを楽しみにしてくれている地紅茶ファンがたくさん参加してくれて盛り上がった。高校生たちが新しい企画として「ペタンク体験」「ネイルサロン」や「新商品のお菓子」のお披露目もあった。地紅茶カフェでは県内外の国産紅茶の飲み比べ、地紅茶の足湯体験も人気だった。広報、PRにも力を入れた結果、当日は、生憎の雨にもかかわらず、来場者は1200人以上と昨年の2倍くらいになった。参加者の40%が市外からで、いろいろな年代の方がいて、家族連れでの参加が多かった。

地紅茶のもつ魅力、可能性を十分に確認することができた。

＜「第3回高粱地紅茶まつり」参加者アンケート＞

来年も開催して欲しいです。

お菓子が売り切れで残念だった。アレンジメントが楽しかった。

午後から来たらお菓子がなくて残念でした。紅茶を飲みながら食べたかったです。

吹奏楽部の音楽はとてもいいですね。これからも頑張ってください。

国産紅茶は飲み慣れたお茶に近くストレートで何杯でも飲めるので好きです。

売店数が少なく、その少ない店も午後には完売しているものがほとんど。

紅茶はとても美味しかったです。

来年はまた違った種類の紅茶を飲ませてくれたらありがたいです。

各高校の特色をもっとだして楽しんでもよいかな？

昼から来たので午前中の雰囲気がよくわかりませんでした。

もっとお菓子が充実しているとよいです。

昼ご飯になりそうなものがすでに売り切れでした。

紅茶の飲み比べはとても良かったです。

いろいろと飲めてそしておいしくいれられていました。

高粱紅茶がおいしかったです。

紅茶の飲み比べがおいしかったです。

すごくおいしく飲みました。

色々とおいしいもの（足湯）があり栄町商店街がにぎわいがあって良かったです。

高校生が大勢活躍されているんですね。フォックスフェイスで通りが飾られていてステキ。

ハンドマッサージが良かった。高校生がよく頑張っていた。

商店街の活性化になる。

倉敷でもいろいろイベントをしていて美観地区から商店街へ観光客が流れています。

7 今後の課題等

- (1) 荒廃茶園の作業は、夏の暑い時期なので体調管理の面からあまり長時間はできない。参加者が楽しみながら、取り組んでもらえる内容にしていく必要がある。また、地元農家を巻き込んで継続的に茶畑の管理をしてく仕組みをつくりたい。荒廃茶園の再生のプロセス、成果をきちんと保存し、更につぎの荒廃茶園の再生につなげたい。

荒廃茶園が再生した後の茶を利用したビジネスにも挑戦したい。

- (2) 市、県など行政や関係機関の支援をいただきながら実施してきたが、今後、継続していくには あまりお金のかからないイベントの在り方を追求していく必要がある。

地元高校、商店街、茶農家との連携をもっと密にしていきたい。

8 実施状況

(1) 荒廃茶園復活再生の取り組み

	
参加者に説明をする (6月21日)	作業風景 (6月21日)
	
作業風景 (6月21日)	作業が終わって記念撮影 (6月21日)
	
草取り作業を楽しむ (8月2日)	釜炒り茶の体験 (8月2日)
	
紅茶体験 (7月26日)	紅茶染め体験 (7月26日)



紅茶染め体験（7月26日）



紅茶染め体験（7月26日）



グループインタビュー（7月26日）



グループインタビュー（7月26日）



紅茶体験2日目（7月27日）



紅茶体験2日目 発酵中（7月27日）



紅茶体験2日目 試飲中（7月27日）



紅茶体験2日目 紅茶が完成（7月27日）

(2) ”地紅茶”で高粱を元気にする 第3回高粱地紅茶まつり (11月1日)



第3回地紅茶まつり開催 (11月1日)



毎年参加してくれるお客様



3 高校で地紅茶カフェ



進行はすべて高校生たち



3 高校で地紅茶カフェ



新企画・紅茶の足湯が人気！



高校生による備中神楽



ネイルサロンが女性に大人気！



平成26年度協働事業提案採択事業の概要 No.9

1 事業名 : 自閉症療育セミナー及び治療教育相談会

2 実施団体名 : NPO法人 岡山県自閉症協会

3 協働担当課 : 福祉振興課障害福祉・保護班

4 事業概要

一般市民をはじめ自閉症児（者）を家庭に持つ保護者や支援者の方々を対象に、自閉症・発達障害に対する理解を深めていただくとともに、日頃から自閉症・発達障害児（者）に関して家庭や職場、地域で抱えている様々な課題に対する解決方法を提供するセミナー及び相談会を開催する。

5 事業の流れ等

9月（中旬）ポスター、チラシの配布

10月1日 参加者募集開始（締切：自閉症協会セミナー 11月27日）

（〃 : 治療教育相談会 11月10日）

11月30日 岡山県自閉症協会セミナー及び治療教育相談会を開催

（場所：総社市総合福祉センター）

セミナー参加者 207名、相談会 11組、託児サービス利用 12名

6 成果・効果

当該事業は県西部（平成24年度）と県北部（平成25年度）においても実施し、発達障害児の保護者等から好評を博しているところであったが、今年度は障害福祉分野において熱心な総社市で開催することで、発達障害に対する理解や支援の機運がより一層高まった。

7 今後の課題等

発達障害児の学齢期の支援として、思春期や成人期につながる関わりについてのセミナーであったことから、保護者等から好評を博したが、今後の課題として、より多くの教育関係者（特に中学校、高等学校）が参加し更に理解を深められるセミナー内容等を検討する必要がある。

8 実施状況

	
受付	セミナー
	
セミナー	セミナー

平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No. 10

1 事業名 : 発達障がい連続勉強会&情報交換会

2 実施団体名 : NPO法人 ていーたいむ

3 協働担当課 : 福祉振興課障害福祉・保護班

4 事業概要

発達障がいの子どもを持つ保護者等を対象に、「ハッピーサポート勉強会」(座学形式の勉強会とグループ形式の情報交換会)を開催し、発達障がいの子育てに必要な知識や情報を学ぶとともに、日頃から抱えている悩みや困りごとを参加者同士で共有し、仲間を見つけ育ちあう機会を提供することで、孤立化をふせぎ、困り感の着実な軽減を図る。

5 事業の流れ等

6月初旬 チラシの配布等による広報

8月3日 第1回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: マービーふれあいセンター)

(参加者数: 講座 96 名、情報交換会 23 名) (託児利用: 8 組 12 人)

9月10日 第2回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 49 名、情報交換会 13 名) (託児利用: 3 組 6 人)

11月20日 第3回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: 倉敷市民会館)

(参加者数: 講座 59 名、情報交換会 16 名) (託児利用: 5 組 9 人)

12月3日 第4回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 52 名、情報交換会 13 名) (託児利用: 4 組 7 人)

1月14日 第5回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 39 名、情報交換会 13 名) (託児利用: 2 組 4 人)

2月5日 第6回ハッピーサポート勉強会を開催

(場所: ライフパークくらしき)

(参加者数: 講座 48 名、情報交換会 19 名) (託児利用: 4 組 8 人)

6 成果・効果

座学形式の勉強会を受講することで、発達障がいに関する理解が深まるだけでなく、子どもにどう対応したらいいかヒントを得たという声が最も多く、連続講座が実践的な学びになった。情報交換会では、同じような立場の保護者同士で悩みや不安を打ち明け合い共有することでひとりじゃないと安心したり、異年齢の子どもの保護者同士で情報交換を行うことにより、先行きの見通しが持てるなど、子育てに対する不安を軽減することができた。

また、過去に相談会や交流会などに参加したことのない参加者が6割以上であり、これまでつながりが持てていなかった人たちに相談できる場を提供できたことも含め、発達障がいの子育てに取り組みはじめた保護者の孤立化を防ぐという意味で大きな成果があった。

7 今後の課題等

参加者の内容への評価は非常に高かったが、参加者が定員に達しておらず、求めている人に届くための広報の工夫が必要である。

また、平日開催では仕事をしている人には参加しにくいという声もあり、週末での開催や、今年度実施した基礎編に加え、より踏み込んだ内容のステップアップ編の提供が課題となっている。

8 実施状況



第1回 公開講座



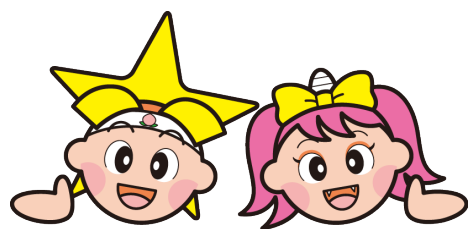
第1回 情報交換会



第5回 連続講座



第5回 情報交換会



平成26年度協働事業提案募集採択事業の概要 No. 11

1 事業名 : 高校生による“備中で暮らすまちの匠（先人）への聞き書き”

2 実施団体名 : 「聞き書き」実行委員会

3 協働担当課 : 地域づくり推進課市町村連携班

4 事業概要

高校生が、地域に根ざして生きているまちの匠・名人から、知恵や技術、ものの考え方を「聞き」、その匠・名人なりの工夫や知恵、技術が加わった人生観を、匠・名人の言葉だけで「書き」おこし文章にまとめる。また、研修会・発表会の実施、成果物である冊子作成等を行う。

5 事業の流れ等

7月11・12日 「聞き書き」研修会（38名参加）

講師に澁澤寿一氏を招き、「聞き書き」を行う高校生を対象にした研修会を実施した。

7月30日 「聞き書き」上映会&トークセッション（24名参加）

聞き書きを行う高校生を取材したドキュメンタリー映画「森聞き」の上映会とともに、講師の室貴由輝先生と「聞き書き」に関する質疑応答を行った。

7月～8月 「聞き書き」の実施

地元の匠（先人）に高校生が「聞く」作業を行った。

9月25日 文章構成の研修会（24名参加）

講師に室貴由輝先生を招き、「書き」おこした文章を基に効果的な文書作成手法を学んだ。

12月13日 発表の仕方研修会（20名参加）

講師に井原放送アナウンサー金盛千裕氏を招き、人前で発表するときの心構えや手法を学んだ。

12月23日 発表会&フォーラム（46名参加）

倉敷新溪園にて、高校生が「聞き書き」の成果を発表した。

6 成果・効果

世代間の交流が疎遠になりつつある現代において、高校生がお年寄りから話を聞く機会が少なくなっている中、匠・名人の言葉を「聞き書き」することにより、その地域の文化・伝統や技術を守り継承する良い契機となった。

また、高校生が匠・名人の知恵や心を「聞き」、「書き」、それを他者に「伝える」ことにより、社会との関わりを持つ大切さを体験し、大きく成長することとなった。

7 今後の課題等

事業を継続的に実施するためには財源確保の課題はあるが、今後は大学生による地域の老舗や企業への「聞き書き」を実施することにより、企業と地域を結び地元での人材確保へと結びつくような活動を検討したい。

8 実施状況



「聞き書き」研修会



「聞き書き」研修会



「聞き書き」上映会&トークセッション



「聞き書き」上映会&トークセッション



「聞き書き」の実施



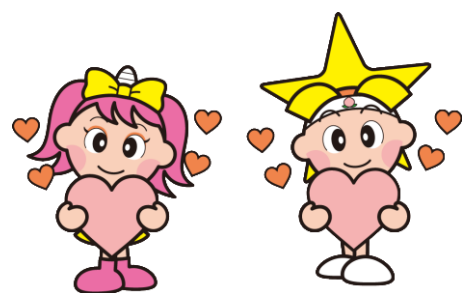
「聞き書き」の実施



発表会&フォーラム



発表会&フォーラム



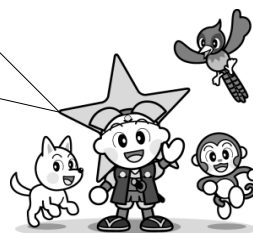
岡山県備中県民局

皆さんの力が
必要です！

協働事業提案募集

岡山県備中県民局では、地域の諸課題を解決し、個性豊かで活力ある「生き生きおかやま」を実現するため、NPO、市民活動団体、町内会、ボランティア団体など多様な主体との協働の取り組みとして、『協働事業提案募集』を実施します。

皆さんの自由な発想と情熱で、『備中の地域づくり』に参加しませんか？



募集テーマ

詳しくは次ページを見てね！

◎指定テーマ

備中県民局管内の様々な諸課題や、今後取り組むべき事柄について、8つの具体的なテーマを設定しています。この中から選択したテーマに沿って、事業を提案してください。

◎自由テーマ

指定テーマには該当しないものであっても、協働のテーマとしてふさわしく、かつ必要・効果的と認められる事業であれば、提案してください。

応募方法等

所定の応募用紙に必要事項を記入し、必要書類を添付のうえ、郵送、持参、FAX、Eメールのいずれかにより右記提出先まで提出ください。

応募様式及び詳細な内容は、「平成26年度岡山県備中県民局協働事業提案募集要項」に掲載しています。応募される場合は、必ずこちらもお読みください。

要項・様式は、右記問い合わせ先及び備中県民局管内各地域事務所地域総務課で配布するほか、備中県民局ホームページからもダウンロードできます。

募集期間

平成25年 12月10日(火) ~
平成26年 1月28日(火)
(最終日消印有効)

提出・お問い合わせ先

〒710-8530 倉敷市羽島1083
岡山県備中県民局 協働推進室 企画班
TEL : 086-434-7003(直通)
FAX : 086-426-9305

指定テーマは以下に掲げる8項目です。このテーマに沿って事業提案をお願いします。

なお、指定テーマ以外であっても、協働のテーマとしてふさわしく、かつ必要・効果的と認められる事業があれば、自由テーマとしてご提案ください。

※ 本事業は平成26年度に実施するものであることから、岡山県議会における平成26年度当初予算において、関係予算が成立することが条件となります。

① 子どもと若者が健やかに育つ社会づくりの推進

備中県民局管内の各地域の現状と課題を踏まえ、子どもと若者が健やかに育つ社会づくりを推進するために効果的な事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・子どもや若者が触れ合う居場所づくりの企画・運営
- ・地域で子どもが参加するボランティア活動や社会貢献活動の企画・運営
- ・子どもや若者が事故や犯罪に巻き込まれないための取組の企画・運営

② 備中の地域・伝統文化の発信

備中地域の個性ある文化等をクローズアップし、広く情報発信を行うことにより、地域の文化振興を図る事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・備中地域の「まちなみ」保存活動団体のネットワークづくりやネットワーク等を活かしたイベント、研修会等の企画・運営
- ・備中地域の個性ある産業、歴史、伝統、食など地域の特色を踏まえ、内外に情報発信することができるシンポジウム等の企画・運営
- ・特定地域を対象とするのではなく、備中の広域的エリアを舞台とすることにより、「文化で備中を結ぶ」ことが期待される取組

③ 中山間地域の活性化の推進

企業や大学、NPO等が中山間地域と連携し、交流会、ツアー、農業体験等を通じて、中山間地域の活性化に資する事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・都市部から中山間地域への移住者を増加させるための交流会やツアー等の企画・運営
- ・中山間地域と都市部の若者がつながるインターンシップ等の企画・運営

④ 産業・観光の振興

備中地域の「強みを活かした産業競争力の強化」や「雇用の確保」等、産業の振興に効果的な事業の企画・運営

【例えば・・・】

- ・就職促進のため、就職に必要な知識、技能を習得させるための研修や、受講者の適性とニーズに即した訓練等の企画・運営
- ・着地型観光や産業観光のスポットやルートの開発及びそれらを定着させるための事業の企画・運営
- ・地域資源を活用した特産品づくりや地域の産業振興につながるセミナーの開催

⑤ 体験型環境学習事業の実施

大気・水環境・地球温暖化等の問題に対し、森林との関係や里山・里海が果たす役割、ライフスタイルの見直しの必要性等、環境保全意識の高揚や環境改善への取組の推進につなげるための、小学生等を対象にした体験型環境学習の企画・運営

【例えば・・・】

- ・污水处理場や自然エネルギー関連施設(メガソーラー、バイオマス等)、エコ住宅等の施設見学事業の企画・運営
- ・河川の源流地域の森林や里山、里海をフィールドとして自然体験学習ができるエコツアー事業の企画・運営
- ・ソーラークッカーや自転車発電などの機材を使った省エネルギー体験事業の企画・運営
- ・地球温暖化や気象に関する実験、星空観察等の事業の企画・運営

⑥ 耕作放棄地の解消

地域の農業者の活動に加え、都市住民や企業、NPO法人、教育機関、行政機関等、地域内外の多様な人々の支援等を活用した耕作放棄地の解消・地域活性化モデルの立案及び実証

【例えば・・・】

- ・食糧自給率向上や地産地消、担い手育成等を目的に、耕作放棄地を活用した持続可能な営農モデルの企画・実践
- ・耕作放棄地の発生防止策、地域の活性化方策の検討・実証
- ・消費者や企業等、多様な主体による地産地消や食育推進など、地域活動の場としての耕作放棄地の活用に向けた企画・運営

⑦ 食と農をつなぐかけはし推進活動

備中地域の多彩な食材を活用し、生産者と消費者の相互理解を深めるイベントの開催や、6次産業化や農商工連携による新商品の開発等により、ブランド力の向上を図る取組の企画・運営

【例えば・・・】

- ・農作業体験など、消費者と生産者の交流によって農林水産業を身近に感じ、次世代へつなぐ活動の企画・運営
- ・地域食材を活用した料理教室の開催やレシピの提案・普及
- ・果物や野菜を使ったスイーツの開発、商品化及び販路開拓
- ・地域食材を使ったレストランメニューの開発やイベントの開催
- ・子供を対象とした、食育活動やイベントの開催

⑧ 発達障害児(者)及び家族への相談支援の推進

発達障害は、本人や家族が障害に気付かない場合や発達障害でないかと不安を持っていても、専門医や専門機関に相談するのには抵抗感を感じている人が多いことから、そのような悩みや不安を持つ人が相談できる場等を提供する取組

【例えば・・・】

- ・発達障害の不安や悩みを持つ人や家族を対象とした相談会
- ・学齢期の発達障害児や家族を対象とした、小学校、中学校等へ出張相談会
- ・発達障害の不安や悩みを持つ人を対象とした電話相談

○応募資格

岡山県内に事務所又は備中県民局管内に活動場所を有する団体で、次の要件を全て満たす団体とします。また、複数団体をメンバーとし、応募することも可とします。

なお、個人は対象としません。

1. 県民局管内で事業実施できること。
※県民局の管内は、倉敷市、笠岡市、井原市、総社市、高梁市、新見市、浅口市、早島町、里庄町、矢掛町の7市3町です。
2. 提案事業の遂行に必要な組織・人員を有し、県民局と協働し、提案事業を最後まで適正に実施でき、実績報告が提出できること。
3. 組織の運営に関する規則（規約、会則等）又はこれに準ずるものがあること。
4. 予算・決算を適正に行っていること。
5. 原則として、1年以上継続して活動していること。
（任意団体が特定非営利活動法人化した場合は、任意団体活動歴を含む。）
6. 宗教活動や政治活動を主たる目的とした団体ではないこと。
7. 特定の公職者や政党を推薦し、支持し、反対することを目的とした団体ではないこと。
8. 暴力団又はその構成員の統制下にある団体ではないこと。

○応募できる事業数

1団体あたり2事業まで応募できるものとします。
（ただし、自由テーマを除き、同一テーマでの2事業の応募は不可とします。）

○審査・選考及びプレゼンテーション

1. 審査、選考は、学識経験者、NPO関係者等から構成された「備中県民局協働事業審査委員会」が行います。
2. 第一次審査（書類選考）で選考された提案について、第二次審査（プレゼンテーション／最終選考）を実施しますが、当日ご参加いただけない場合は、審査の対象外となります。

○協働事業協定書の締結（事業化の決定）

第二次審査で選考された事業を提案された団体は、事業内容等について県民局の担当部所と協議を行い、県民局との合意を得た場合に事業化が決定することとし、合意内容を記載した協定書を締結します。

※ 第二次審査で選考された段階では、まだ事業化の決定ではありませんので、ご注意ください。

＜参考：応募制限＞

平成27年度事業募集から、備中県民局における本制度において、応募時点で、団体として既に4回以上採択された事業は応募を不可とします。

なお、今回募集している平成26年度事業募集については、事業の採択回数による応募制限はありません。

○募集事業の条件

協働実施する事業は、「募集テーマ」に沿ったもので、次の条件の全てを満たす事業とします。

1. 公益的、社会貢献的事业であり、広く社会的課題の解決が図られること。
2. 県民局と協働することにより、相乗効果が得られる事業であること。
3. 地域住民のニーズが認められ、実施により地域住民の満足度が高まる事業であること。
4. 特定の地域を対象とする事業については、先進性、先駆性が認められ、他の地域への波及が期待できるものであること。
5. 予算見積が適正であり、必要最小限の経費となっていること。
6. 原則として、平成26年度の単年度事業であること。
（終期：原則として、平成27年2月末）

※ 対象外とするもの

次のいずれか1つに該当する事業は、対象外とします。

- ① 営利を目的とする事業
- ② 特定の個人や団体のみが利益を受ける事業
- ③ 施設等の建設及び整備を目的とする事業
- ④ 岡山県から他の予算により助成を受けている（受ける計画のある）事業
※ その他、県の他の補助事業に応募可能な事業は、採択を見合わせる場合があります。
- ⑤ 国、他の地方公共団体及び他団体からの助成等を受ける計画のある事業で、その助成が受けられなかった場合、事業の執行ができなくなる（事業縮小、資金調達ができない）事業

○備中県民局の経費負担

1. 事業費のうち県民局が負担する経費は、提出された事業計画書や収支予算書により事業毎に判断することとします。
（選考されても申請額どおり認められない場合もあります。）
2. 県民局の負担する経費については、次の取扱を原則とします。
 - ① 団体として、これまで本制度において採択されたことのない事業は、補助率10分の10とし、上限を1件につき200万円とします。
 - ② 団体として、これまで本制度において1回でも採択されたことのある事業は、補助率2分の1とし、上限を1件につき100万円とします。
3. 実施する事業の執行に直接必要とする経費を負担するものとし、事業と関わりのない経費（団体の管理運営費等）は対象外とします。
4. 県民局が事業経費を負担した場合において、事業実施後に余剰金が発生した場合は、返還を求めます。

○事業の流れ（スケジュール）

公募期間	→	第一次審査 （書類選考）	→	第二次審査 （プレゼンテーション）	→	事務説明会 の開催	→	関係部所 との調整	→	協定書の締結 事業開始	→	事業 実施	→	事業評価
H25.12.10～H26.1.28		H26.3中旬		H26.4.18（金）		H26.4下旬								H27.3

5 備中県民局協働事業審査委員会の概要

(1) 協働事業審査委員会（以下「審査委員会」という。）

協働提案募集事業の審査・評価を行うとともに、備中県民局の協働事業全般についての意見、助言を求める目的で、平成22年度に設置したもの。

(2) 平成26年度審査委員会委員

- ・松畑 熙一（委員長） 中国学園大学・中国短期大学 学長
- ・岡崎 順子 岡山県立大学保健福祉学部 教授
- ・高平 亮 岡山NPOセンター 理事
- ・古賀 桃子 ふくおかNPOセンター 理事長
- ・靄 理恵子 吉備国際大学社会学部 准教授
- ・黒宮亜希子 吉備国際大学外国語学部 講師
- ・下山 高司 倉敷市市民協働推進部次長（兼 市民活動推進課長）

(3) 平成26年度における審査委員会等開催状況

ア 第1回審査委員会

- 日時 平成26年4月18日(金) 9:15～15:15
- 場所 備中県民局会議棟第4～第6会議室
- 主な内容

平成26年度協働事業提案募集における第二次審査(団体によるプレゼンテーション)を実施し、応募のあった45事業のうち、第一次審査を通過した19事業について審査した結果、11事業を選考した。

イ 協働事業提案募集制度の協議

- 日時 平成26年10月～11月
- 場所 審査委員会委員勤務先等
- 主な内容

・平成26年度協働事業提案募集制度における採択事業の進捗状況について

ウ 平成27年度協働事業提案募集制度第一次審査(書類審査)

- 日時 平成27年2月～3月
- 場所 審査委員会委員勤務先等

○主な内容

平成27年度協働事業提案募集により応募のあった26事業について、第一次審査（書類審査）を各審査委員会委員が実施し、審査の結果、15事業が第一次審査を通過した。

エ 第2回審査委員会

○日時 平成27年3月9日(月) 13:00～16:00

○場所 備中県民局会議棟第1～第3会議室

○主な内容

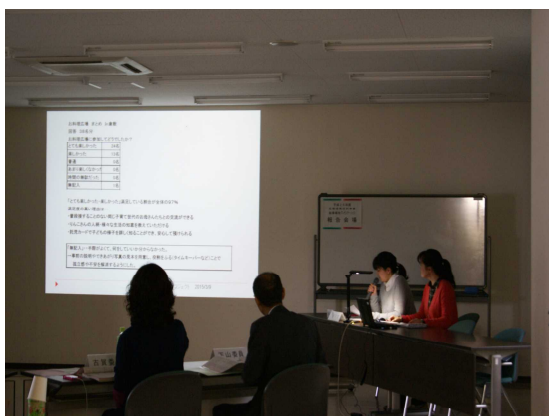
平成26年度に協働事業提案募集制度により選考された11事業について、事業実施団体が結果報告プレゼンテーションを実施し、審査委員会委員が講評等を行った。



第1回審査委員会の様子（その1）



第1回審査委員会の様子（その2）



第2回審査委員会の様子（その1）



第2回審査委員会の様子（その2）

6 協働研修の実施状況

(1) 第1回研修

平成26年度における第1回の研修として、自治振興会が行うまちづくりに関する支援、集落支援員による地域課題解決に向けた取組、限界集落における買い物困難者と高齢者への支援を行う行政担当者から話を伺うとともに、都市住民と地域住民との協働に取り組む有木自治振興会の現地視察を行った。

日 時	平成26年11月21日（金）8：20～17：15
場 所	広島県神石郡神石高原町
参加者	備中県民局職員、市町職員、自治会役員、その他団体職員等 22人
視察先	神石高原町役場、道の駅さんわ182ステーション、有木自治振興会
内 容	自治振興会、集落支援員制度、有木自治振興会「あるぎ倶楽部」の取組 等
状 況	○研修の様子



(2) 第2回研修

全国で多様なプロジェクトに携わっている株式会社studio-Lの西上ありささんを招き、“まちの担い手となるコミュニティ”をデザインするための研修会を行った。

日 時	平成27年3月12日(木) 13:30～15:30
場 所	備中県民局会議棟1階
参加者	県職員、市町職員、NPO職員、その他団体職員等 35人
講 師	西上 ありさ (株式会社 studio-L コミュニティデザイナー)
内 容	○講演 「コミュニティデザインによる地域課題解決の支援」 ○グループワーク
状 況	○研修の様子



7 平成22年度～平成25年度における協働事業提案募集採択事業の概要

※ 事業概要については、採択時のものであり、その後の調整により変更となっている場合がある。以下同じ。

(1) 平成25年度採択事業

事業名	団体名	事業概要
こどもの安心・自信・自由を守るためのワークショップと講演	エンパワーメントMOMO	子どもがあらゆる暴力から自分を守るためのCAP(子どもへの暴力防止プログラム)ワークショップを実施する。 また、有識者による講演会の企画及び開催を行う。
備中地域町並み保全と活性化事業	備中地域町並み保全・活性化会議	平成25年9月に開催される「全国町並みゼミ倉敷大会」を踏まえ、その検証や実践としてバスツアーやワークショップを行い、備中地域の更なるネットワーク化や地域資源の発掘等を行う。
キビと薄荷による耕作放棄地の再利用化と低炭素化	元倉敷未来計画	備中特産として脚光を浴びてきたキビと薄荷の作付け拡大と普及の為に活動(植え付け、収穫、販売支援など)を行う。
備中の文化である綿で玉島の町を白く埋め尽くし、復活、伝承、定着をはかる	NPO法人 備中玉島観光が'it'協会	耕作放棄地や観光コースに備中綿を植え、インターネットなどを通じ広報をすることで観光客を誘致する。また、出前講座・発表会などの開催により、綿文化の復元、伝承を行う。
都市住民との体験交流事業	矢掛町下高末棚田保全組合	都市住民と、田植え祭り、稲刈り、野菜収穫、お飾りづくり、餅つき等を通じて、体験交流を行う。
おかやま備中暮らし支援プロジェクト	子ども未来・愛ネットワーク	岡山へ保養・避難・移住を目指す人に対し、岡山県内の生活情報等を取りまとめた冊子等の制作及び情報発信、東北等における相談会における情報提供、交流体験プログラムの実施等を行う。
児島ジーンズ伝承 ～ものづくりの歴史と技術	児島ジーンズストリート推進協議会	ジーンズづくりの歴史と技術に関わる資料・情報を集め、整理・保管・展示する「児島ジーンズアーカイブ」を作成し、それを利用した「ジーンズ塾」の企画・開催を行う。
備中高梁フィールドミュージアム事業 備中高梁の自然・歴史・文化を活用した体験型環境学習	NPO法人 フォレストフォーピープル岡山	備中高梁の自然・歴史・文化を活用し、幼・保育園児、小中学生等を対象とした各種プログラムを実施するとともに、他地域におけるフィールドミュージアム事業の取組等を紹介するシンポジウムの開催を行う。
荒廃茶園の復活と地紅茶のまち”高梁”の発信	百姓のわざ伝承グループ	荒廃茶園復活応援団を募集し、活動するとともに、地紅茶のまち‘高梁’発信イベント～紅茶ウィーク～を開催する。
自閉症療育セミナー及び治療教育相談会	NPO法人 岡山県自閉症協会	新見市内において、専門家を講師に招いたセミナーの実施及び専門家による個別の治療教育相談会の開催を行う。
高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き	「聞き書き」実行委員会	高校生が、地域で暮らす先人(匠)と出会い、その話を「聞き」、そのまま「書き」おこし、文章にまとめる。また、研修会・発表会の実施、成果物である冊子作成等を行う。

(2) 平成24年度採択事業

事業名	団体名	事業概要
育ちをサポート！お出かけ育メン育女応援団	NPO法人 保育サポート「あい・あい」	「地域の子育て支援の場」と「団塊の世代や学生等の活躍の場」をつなぐため、ニーズの把握や事前研修、スケジュール調整等を行うプロジェクトの開始及び運営
備中の伝統である綿で玉島の町を白く埋め尽くす事業(チャレンジ2)	NPO法人 備中玉島観光ガイド協会	昔から玉島地区で栽培されていた「綿」の栽培等を通じ、環境客の誘致や障害者施設への作業提供、インターネットでの発信を通じて地域の活性化を図る。 ・綿の苗(6,000本)、綿の種のセット(約10粒入り、4,000セット)の配布 ・玉島地区の小学校に対する綿の栽培の出前講座の実施 ・身体障害者施設に対し綿関連の作業を発注することでの就労支援
「高粱地紅茶まつり」の開催と備中宇治茶の生産振興	百姓のわざ伝承グループ	備中宇治茶を使用した「高粱紅茶」のアピールと産地活性化を目的とした「高粱地紅茶まつり」の開催 ・日時 平成24年11月23日(金)～24日(土) ・場所 高粱市文化交流館 等 ・内容 シンポジウム、地紅茶カフェ、地紅茶列車の運行 等
備中地域町並み保全と活性化事業	備中地域町並み保全・活性化会議	備中地域の北部(新見)、中部(高粱)、南部(倉敷、総社、笠岡等)の伝統的景観を保つ町並みや集落を探訪し、その地区で活動する団体と交流することで、町並みの保存と活性化を図る。
低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト	元倉敷未来計画	備中地域を中心に栽培が盛んだった「キビ」「ハッカ」の復活、活用による地域活性化を目的に各商品の生産プロセスと商品化の確立を図る。 ・耕作拡大運動と原料の供給の確保 ・キビ枕等、関連商品の開発及び農業体験の紹介等による内外への発信
地域に新たな仕事とつながりを生み出す「着地型観光プログラム×地域インターンシップ」	NPO法人 吉備野工房 ちみち	今まで実施してきた着地型観光プログラム「みちくさ小道」を活用して、大学生が主体となって着地型観光プログラムを企画開発することにより、地域を担う若者の人材育成と地域資源を活用した起業支援、新事業開発支援を目的とする。

事業名	団体名	事業概要
草間台地の優れた自然環境や多様な生物をテーマとした環境学習・エコツアー	草間台エコミュージアム推進協議会	草間台地の自然・歴史遺産・文化・産業などの貴重な資源を生かし、他地域との交流、連携の促進や情報発信による地域活性化を図る。 ・貴重な生物(ウスイロヒョウモンモドキ等)の勉強会、観察会等の実施
GREENDAY2012 ～企業と世代をつなぐ持続的環境教育～	GREENDAY2012実行委員会	環境保全をテーマとして、高梁川全流域で大人から子どもまでの幅広い年代を対象にした講座を開催し、人材の育成と環境に関する地域課題の解決を目的とした事業を展開する。 ＜予定している講座例＞ ・ワシ・タカ観察会(高梁市:6歳以上対象) ・神郷の森「森林間伐作業体験」(新見市:18歳以上対象)等
草間台地の特産品・ソバの栽培による耕作放棄地の解消とキノコの原木栽培による眠っている山林資源の活用	草間台エコミュージアム推進協議会	草間台地の自然・歴史遺産・文化・産業などの貴重な資源を生かし、他地域との交流、連携の促進や情報発信による地域活性化を図る。 ・ソバの種まきから収穫までを都市住民とともに実施する。 ・キノコ栽培について、原木伐採から植菌までを都市住民とともに実施する。 ・採れたソバとキノコについて料理等を実施し、食文化を楽しむ。
自閉症教育セミナー及び治療教育相談会	NPO法人 岡山県自閉症協会	県西部や北部での開催が少ない自閉症療育関係のセミナーについて、備中局管内で実施し、自閉症に対する理解や支援の気運が醸成され、かつ個別の相談会により日常的に抱えている困難や不安の軽減を図る。
地域ハートフル大作戦 ～ひきこもり回復支援事業～	NPO法人 エブリイハート	ひきこもりに関する啓発・広報活動を展開することで、当事者や家族を掘り起こし、地域住民の理解と支援を要請する。 ＜具体的内容＞ ・ひきこもりを題材とした映画の上映等による啓発活動 ・ひきこもり支援者の専門的研修の実施 ・ひきこもり家庭訪問及び出張相談 等
高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き	「聞き書き」実行委員会	地域の文化、伝統を継承していくことと、若い世代の地域への意識高揚のため、高校生が地域で活動している「お年寄り(先人・匠)」から知恵や技術、考え方を「聞き書き」し、文章として残す事業

(3) 平成23年度採択事業

事業名	団体名	事業概要
気づく つなぐ 地域で支える 心の健康 ～うつ病 私たちが出来ること～	にしみフォーラム	うつ病を克服された著名人を招いての基調講演と医師や専門家によるパネルディスカッションを中心としたフォーラムの開催
被害者の声を聴いてください ーシンポジウムとコンサートー	(社)被害者サポートセンターおかやま	性被害者と支援員によるシンポジウムと自らが被害者であるバンド「PANSAKU」によるライブ等の開催
新見御殿町歴史探訪 ”土下座まつり拝観”と”まち歩き”そして”歴史講談”	関重爾史会	新見の「土下座まつり」の拝観とまつりの舞台となる新見御殿町の「まち歩き」に加え、新見藩やまつりの由来、丸川松隠にまつわる「講談」をプログラムとするイベントの開催
「備中玉島を綿で白くする」事業	NPO法人 備中玉島観光ガイド協会	昔から玉島地区で栽培されていた「綿」を復活させ、観光客の誘致と地域の活性化を図る ・綿の「種」と「苗」の配布 ・玉島地区の小学校(11校)への栽培指導や出前講座の開催 ・備中綿鑑賞会や収穫祭、写真展の開催 等
低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト	元倉敷未来計画	備中地域を中心に栽培が盛んだった「キビ」と「ハッカ」の栽培を行い、市街地内耕作放棄地の解消と商品化による地域活性化を図る ・耕作拡大への活動 ・キビの枕、ハッカのカクテル等を中心にした商品化 等
GREENDAY2011 ～2011国際森林年と高梁川の持続的な環境保全活動宣言～	GREENDAY2011実行委員会	2003年から開催されてきた「GREENDAY」の活動を総括し、いままで活動を実施していない哲西町をメイン会場として、国際森林年の活動理念と連携をとったイベント等の開催 ・メイン会場:きらめき広場(新見市哲西町)でのイベント開催 ・倉敷、総社、高梁、笠岡を会場とした環境関連産業及び市民活動の人材育成を目的とした連続セミナー「GREENDAY COLLEGE」の開催

事業名	団体名	事業概要
みんなでつくる！高梁川流域のエコ指標	(財)水島地域環境再生財団	地域の自然環境の状況把握と環境意識の醸成を目的とした「エコ指標」の作成と、作成した指標を活用したシンポジウムの開催
出張型集団一時預かりサポートネットワーク形成事業	NPO法人 ふれあいサポートちゃていず	イベント、講演会、講座等の会場での一時預かり事業のネットワークを形成するため、備中地域各市町において乳幼児の一時預かりのサポートのできる人材を育成する ・一時預かりサポーター養成講座の開催 ・出張一時預かりポータルサイトの立ち上げ 等
虐待防止のための連続ワークショップ事業 「わたしだってほめられたい ～自分を好きになるワークショップ～」 「スターペアレンティグ ～親と子どものよい関係を築くために～」	NPO法人 子ども劇場笠岡センター	子育てを楽しむ親を増やす機会として、県民局管内5箇所連続ワークショップを開催する ・わたしだってほめられたい ～自分を好きになるワークショップ～の開催 ・スターペアレンティグ ～親と子どものよい関係を築くために～」の開催
高校生による備中で暮らすまちの匠(先人)への聞き書き	「聞き書き」実行委員会	地域の文化、伝統や技を守り継承していくことと、若い世代の地域への意識高揚のため、高校生が、地域で活動している「お年寄り(先人・匠)」から、知恵や技術、考え方を「聞き書き」し文章として残す事業
CAP(子どもへの暴力防止プログラム)の実施	エンパワメントMOMO	子どもたちをあらゆる暴力から守るために、アメリカで開発されたCAP(子どもへの暴力防止プログラム)を、ワークショップ、研修会形式で開催する

(4) 平成22年度採択事業

事業名	団体名	事業概要
新米ママ・パパのための子育て安心講座	たんぽぽの里	子育て中のママ、パパを対象に、子育てに関する様々な知識や情報を取得するための講座を開催 (講座内容例) ・子どもの身体発達と病気 ・子どもの栄養と食事 ・子どもの遊び 等
スクラップブックフェア2010	岡山スクラップブッククラブ	スクラップブックフェア2010の開催 ・作品展示、体験コーナーの設置 ・ワークショップの開催 ・スクラップブック用品の販売 等
低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト	元倉敷未来計画	・農家、不動産、まちづくり専門家によるPTの立ち上げ ・IT技術による耕作放棄地のDB化、耕作等の情報提供、新規営農者の居住推進 ・生ゴミを堆肥化する設備の活用によるCO2低減に寄与
”じぶんチェンジ”ツアーin備中	NPO法人 リスタート	・7月………具体的なプログラム作成、募集の開始 ・8～12月…県内5カ所(倉敷、笠岡、総社、高梁、浅口を想定)で少人数の移動型研修会を実施 ・1～2月…アンケート分析、事業報告書作成
子育てママが参加する公園遊びをつくるダンボールファクトリープログラム	遊び場を考える会	講座及びワークショップの開催 ・講座「幼児期の外遊びと冒険遊び場」の開催 ・ワークショップ「どんな遊び場？」でプランづくり ・「ダンボールファクトリー」で屋外遊び場を作る